

■ポイントセンサスによる鳥類の確認状況について

鳥類ポイントセンサス確認種数は表1に、鳥類ポイントセンサス調査地点図は図1に示すとおりである。

動物調査のうち、鳥類のポイントセンサス調査をもとに代表的な環境と動物種数の相関関係を整理した。

千曲川近隣の地点であるSt. 1、2、3、4、5、6、8、10、11、12、13では、開放水面、草地、農耕地、河畔林等の環境が存在し、水辺を利用するサギ類、カモ類、平地や農耕地を利用するキジ、ムクドリ、草地や川原を利用するオオヨシキリやホオジロ、市街地等を利用するカラス、スズメ等の鳥類で構成されており、全季節の確認種数は19種から35種となっている。

また、対象事業実施区域近隣の地点であるSt. 7、9では、人工物、草地、農耕地等の環境が存在し、主に市街地や農耕地を利用するカラス、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ等の鳥類で構成されており、全季節の確認種数は18種から22種となっている。

表1 鳥類ポイントセンサス確認種数

季節	確認種数	St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	St. 6	St. 7	St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	St. 13
秋	30	9	9	9	7	12	6	11	6	12	6	8	8	10
冬	37	12	18	13	9	17	12	11	7	8	13	8	8	15
春	37	17	14	12	7	12	7	7	10	10	8	9	13	11
繁殖	29	11	13	15	11	9	7	10	12	7	8	10	10	12
夏	28	7	8	10	9	8	8	10	7	5	6	9	6	11
全季	56	34	31	35	22	31	19	22	23	18	20	26	25	33

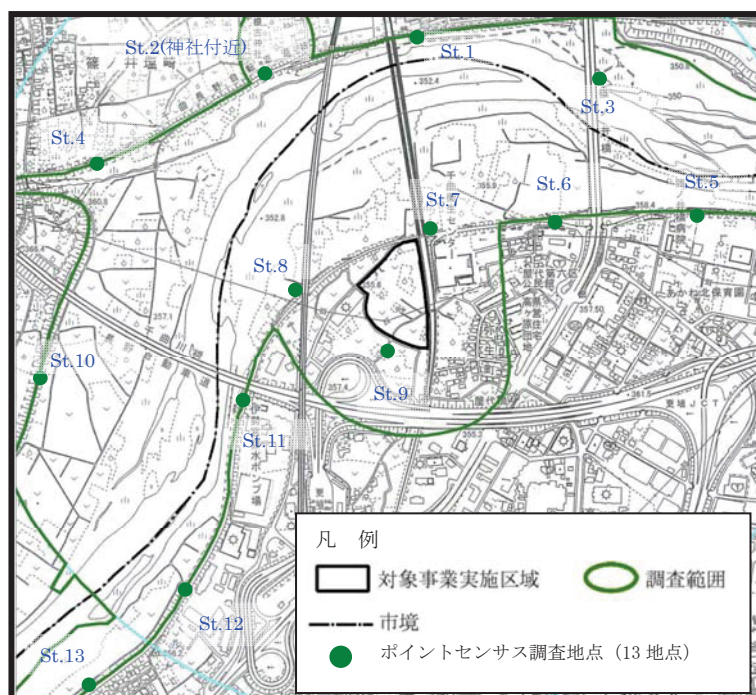


図1 鳥類ポイントセンサス調査地点図